



水彩画、油絵、手芸品、陶器など78点が並んだ。会員や会員の家族、役員、留学生など東京YMCAに関わるさまざまな人が出展した。

見隆夫氏、新槐樹社准委員の菅谷功氏の4人でハサミを入れて、まず開場。希望者には菅谷氏の優しいあたたかな講評が受けられ、鑑賞に十分な時間が費やされました。

水彩画、油絵、書道、水墨画、写真、陶器、工作の絵付け、手芸品と個性あふれる力作が多く、応募された作者には、毎年、個展、グループ展に出展されておられる人もいます。

78の力作 東陽町を彩る

第17回 会員芸術祭開催

6月30日から7月5日まで、毎年恒例の会員芸術祭が開催されました。場所は東陽町センター1階正面の多目的室。開催に先立ちオリブニングセレモニーが6月28日に開かれ、出品者、氏、会員部運営委員長・小原武夫氏、実行委員長・浅

(11面から続く) 加し、社会人として自立できる障がい者。小中学校の段階からそれを視野に入れて、生涯の個別支援計画を作っていくことが必要です。年をとって、親がいなくなっても、社会の中に参加して、豊かな人生をまっとうできること。これからの支援にはこれが欠かせないと思っています。お年寄りだったら、ケアマネジャーがいて、その家のさまざまな相談にのりますよね。そういう生涯を通しての支援があれば、親だって安心だと思えるのです。

2014年度 表彰賛助会員

- 継続10年 有限会社ツカサエンタープライズ
- 継続15年 株式会社トップナッチーツーリスト 京王観光株式会社 東京南支店 株式会社集英社 株式会社J-オイルミルズ
- 継続20年 清水井産業株式会社 理想科学工業株式会社
- 継続45年 株式会社木村洋行 日本電波工業株式会社 パナソニック株式会社 株式会社小学館 東燃ゼネラルグループ東燃ゼネラル石油株式会社

児童養護施設に暮らす子どもたち

東京育成園園長 渡辺 俊彦氏 現在、全国には599の児童養護施設があり、約3万人ほどの子どもたちが暮らしている。昔と違い、9割以上は親がいる子どもたちで、その内8割は何らかの虐待を経験している。虐待件数は全国的に増えており、昨年度の相談件数は約6万7千件。この10年で1か月平均7人の子どもが虐待により亡くなっている。背景には、家庭・夫婦関係の破たんがあり、多くの子どもが難民化しているとの警告もある。施設では、専門家による治療や親への働きかけなどを行ない、親子関係が疎遠にならないように、親元へ戻れるよう努めている。YMCAのキャンプを経験できることは大変ありがたい。参加した子どもたちは一回り成長し、楽しかったと言って帰ってくる

第二部の懇談会席上では、伊豆大島台風災害復興支援活動について、担当職員村上祐介から、多くの方の協力により各種の活動が実施できたこと等報告があり、感謝のうちに閉会となった。

賛助会年会・アドバイザー会

日ごろ東京YMCAを支援して下さる企業・団体に感謝や表彰を行うため、7月11日、恒例の「賛助会年会」を開催しました。会場となった千代田区公会堂には、賛助会企業16社と、アドバイザー、ティールンやバザーなど

ベントのサポート、各種の募金等協力など、さまざまな形で東京YMCAを支えて下さっている。この日は、勝田正佳評議員会長の開会挨拶に続き、北城格太郎賛助会会長(日本アイ・ピー・エム株式会社相談役)から、会員への感謝が述べられた。北城会長は、「現代社会には、たとえは少子化、子ども

もの貧困、教育など、幾多の課題があるが、国や地方自治体だけでは細かいところまで対応できない」とある。この日は、北城会長から感謝状が贈呈された。

その後、「児童養護施設に暮らす子どもたち」をテーマに、社会福祉法人東京育成園園長の渡辺俊彦氏による講演があった。渡辺氏は、毎年東京YMCAのフレンドシップファンドの支援によって、育成園の子ども数名がキャンプに参加できることへの感謝と、児童養護施設の現状について語られた。

トピックス

英語講師らが母国文化を紹介

東陽町語学教育センター

子どもたちに楽しく異文化に触れてもらおうと6月21日、東陽町センター1階カフェテリアで、「インターナショナルデー」を実施しました。外国人講師、にほんご学院の学生たち、ボランティアの方々等たくさんの方がイベント運営に参加してくださいました。今年度はお祭りの屋台のように10カ国(アメリカ、メキシコ、ロシア、ケニア、フィリピン、ネパール、モンゴル、中国、ベトナム、日本)のブースを企画し、さらには国際協力募金のブースも準備しました。当日は2歳から小学生まで約90人の子どもたちが参加し、それぞれ趣向を凝らした異文化紹介を体験しました。異国の衣装、食べ物、おもちゃなどを初めて見た子どもたちは目を輝かせ、世界へ視野を広げる楽しさを感じてくれたようです。



今後も英語教育を通して、世界と地域を見つめ、考え、行動する「地球市民」を育てる活動を精力的に行なって参りたいと考えています。(東陽町語学教育センター 白鳥弥生)

東日本大震災復興支援 チャリティーコンサート

東京白金高輪ワイズメンズクラブ

東日本大震災直後の2011年3月末、支援をしたい、との思いから、当クラブメンバーの1人が所属する「早稲田大学ハイソサエティオーケストラO B」(High Society Reunion Orchestra)に声をかけ、玉川聖学院の承認を得て、同年11月に第1回目のチャリティーコンサートを開催し、東京YMCAに募金させていただきました。その後、「また聞きたいよ」との多くの声に後押しされ、第2回目を今年7月5日、同学院で再び開催することができました。東京YMCAに後援していただき、廣田光司総主事もご挨拶くださり、とても楽しくにぎやかで、予定通りの



成果をあげられたかな、と思っています。来場者は約220名でしたが、純益272,000円をすべて東京YMCAに献金させていただきました。条件がそろえば、さらに第3回、第4回、第5回・・・と続けられればと思っております。ご後援くださり、大変ありがとうございました。(東京白金高輪ワイズメンズクラブ コンサート実行委員長 小林義彦)

戦前の話である。「戦前」とは、日本が戦争に至る道にひたすら歩んだ時期をさす。私はいま、1934年(昭和9年)の初夏の記事に、目を留めていた。

さて、こうしたさなかの1934年5月、東京YMCAは理事長長尾半平の古稀を祝う感謝会を開いた。「東京青年」は記録として見出しを「長尾先生の真面目」とした。台湾総督府土木局長を終えて長尾が台湾を去る時、官民が記念銅像建設を申し出た。しかし長尾は「私の銅像が風雨に曝され鳥の糞の積り場になるよりも」と、拠金を有為の台湾青年への奨学金に向け

シリーズ 資料室の窓から(86) 長尾理事長の「しんめんもく」 齊藤 實 本会元副総主事

る。この時期、日本帝国陸軍は1931年9月に満州事変を起し、1932年5月1日には青年将校らが犬養首相を射殺し、1934年10月に陸軍省が国家改造を示唆する「国防の本義と其強化の提唱」を頒布した。その冒頭で「たかひは創造の父、文化の花である。」と記し、「国民と軍隊とは一体となつて武力戦争に参与する」という国家総動員なる思想」を唱導していた。

また、12年に及ぶ在任中は、一度も台湾神社に参拝していない。天皇を「現人神(あらひとがみ)」として拝礼し、神社参拝は、これに次ぐ国民のなすべき大事とした時代である。台湾総督児玉源太郎の台南視察に随行したある日、「明日午後は御伴しますが、午前中は失礼します」と断った。午前中に総督の台南神社参拝が予定されていたからであった。総督は長尾がキリスト者として知っていた。周囲が騒いで報じた「ヤソ長尾も玉串を捧げた」に、総督は否定して言った。「彼は、時と場合で主義を二三するやうなケチな男じゃ無いよ」と。

長尾半平は時代におもねない「信念」を、東京YMCA第6代理事長としてぶれることなく示した。キリスト教団体YMCAの「まじめな」「しんめんもく」発揮をここにみる。

世界共通テーマは「若者に力を」

83カ国から1300人 世界Y M C A大会開催

→日本からの参加者たち



→ヨハン・世界同盟総主事からチェンジ・エージェン



2番目が浅羽さん



4年に1度、世界各国のY M C Aが集う「世界Y M C A」大会。第18回となる今年は、6月29日～7月5日、アメリカコロラド州で開催され、83カ国から1300人が標高2,441mのエステスパーク・ロッキーY M C Aに集合した。日本からは会員、ボランティア、職員計28人が参加。東京からは国際委員の浅羽俊一郎氏、職員の伊藤剛士氏、永岡美咲氏、菅谷淳の4人が参加した。

大会のテーマは「若者に力を（ユースエンパワメント）」。「言うまでもなくY M C Aは、170年前の誕生以来ずっと、さまざまな事業・活動をおして若者の活躍を推進してきたのであり、その本来の運動を見直し、変革していこうというのが今回のテーマである。

1週間の大会は毎日祈りと音楽による礼拝から始まり、グループ協議、世界Y M C A同盟の総会と役員選挙、また合間には自然探索やY M C Aの施設訪問、ウエスタンやジャズのコンサートなど盛りだくさんの内容だった。世界Y M C A同盟総主事ヨハン・エルトピック氏の力強い演説も印象的だった。

4年前に香港で開催された世界大会でも、若者の活躍などを重点項目とした4カ年計画「NEW WAY（ニューウェイ）」が作られた。その後、それを実践するために世界63か国から220人の若者が「チェンジ・エージェン

ト（社会を変える人）」として選ばれ、数々の訓練、研修を受け、今大会でも重要なけん引役を果たした。今回の中心プログラムは、全員が参加したグループ協議で、約20人ずつ、計59のグループに分かれて、4年前の計画をより具体的に実行していく計画「OUR WAY（アワー・ウェイ）」について、話し合いと作業が行なわれた。各グループでの進行役は、チェンジ・エージェン

(本部事務局長 菅谷淳)

大会の運営に関わって

医療福祉専門学校 永岡美咲

世界Y M C A大会で私O12年に作られた役割は、「チェンジ・エージェン」の一員として、大会を「変える人々」といった意味になる。世界各地のY M C Aから220人が選ばれ、それぞれの立場・現場に合わせ活動している。か、共に世界レベルでの研究も受けるなどして、交流も深めてきた。



→ヨハン・世界同盟総主事からチェンジ・エージェン修了証を受け取る永岡さん

予想外の体験

国際委員 浅羽俊一郎

この度、世界大会に東京Y M C Aから参加させても滞りませんでした。本大会は世界Y M C Aが今後若者を積極的に巻き込むことを確認し、その担い手として各地から選ばれた総勢200余名の若いチェンジ・エージェン

「近代資本主義、主権国家システムはいずれ別のシステムへと転換せざるを得ません。しかし、それがどのようなものか、人類はまだ見出せていません。そうである以上、資本主義とも主権国家ともいえないものが出てくる。トーマス・フリードマン『世界から「与えあう世界」への転換が求められているのだと思います。歴史の転換点を評論家として見るのではなく、自分たちの手で切り開いていく責任を感じます。」

「チェンジ・エージェン」の一員として、大会を「変える人々」といった意味になる。世界各地のY M C Aから220人が選ばれ、それぞれの立場・現場に合わせ活動している。か、共に世界レベルでの研究も受けるなどして、交流も深めてきた。

「若者に力を」を世界Y M C A共通の目的として位置づけることで、世界中のY M C Aの「多様性の中の統一」を目指し、国際社会でY M C Aがさらなるプロフェッショナルを発揮していく挑戦を始めています。今回の世界大会は、そんな世界規模での挑戦への熱気に満ちており、時折身震いするほど

世界規模での挑戦に感動

会員部 伊藤剛士



アジア太平洋地域のユース集合写真

今回の世界大会では、今後重点的に取り組むことが後4年間のY M C A運動の方向として「アワー・ウェイ」が採択された。この方向としていくリーダーとなるのは、若者が希望をもってとへの期待と決意が込められており、特に、若者を取り巻く「健康・市民参画・環境の4分野の問題に今の強化」と「探索・対話・

豊かさを取り戻すために

すべての人を一つにしてください

「近代資本主義、主権国家システムはいずれ別のシステムへと転換せざるを得ません。しかし、それがどのようなものか、人類はまだ見出せていません。そうである以上、資本主義とも主権国家ともいえないものが出てくる。トーマス・フリードマン『世界から「与えあう世界」への転換が求められているのだと思います。歴史の転換点を評論家として見るのではなく、自分たちの手で切り開いていく責任を感じます。」

(総主事 廣田光司)